

京都光華女子大学・短期大学部の取組報告

大学に求められるIR機能の実現に向けて
～IR活動展開の課題と学修成果の可視化～

京都光華女子大学・短期大学部
副学長 EM・IR部長
水 野 豊



【大学の基本情報】

◆ 沿革 昭和14年光華女子学園設立
東本願寺系の宗門校

◆ 教育研究組織

大学院
学部

看護学研究科、心理学研究科
こども教育学部
健康科学部
キャリア形成学部

短期大学部 ライフデザイン学科

◆ 在籍学生数 1,835名 (H28.5.1)



京都市右京区西京極

○本日のお話の内容

1. エンロールメントマネジメント 、そしてIRへ
2. IR活用に関する基本的な考え方・方針
3. EM・IR活動の学内体制
4. 活動評価と改善の仕組み、現状
5. 今後の課題と展望

○本日のお話で伝えたいこと

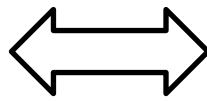
- 建学の精神の具現化を目指す小規模私学のIRの試み

○本日、みなさまと考えてみたいこと

- 大学価値の向上とIR

1. エンロールメントマネジメント、そしてIRへ

教育の質転換・質保証
⇒個に応じた総合的支援



人材養成ニーズの社会変化、少子化
⇒教育研究組織の再構築

学生支援GP(EM推進センター設置)



H20 学士課程答申
H24 質転換答申

EM・IR部設置

私立大学改革総合支援事業採択(～現在)

大学教育再生加速プログラム(AP)採択(～H31)

H19

H22

H23

H24

H25

H26

H27

H28

文学部、人間科学部改組し、

キャリア形成学部、健康科学部(健康栄養学科)、人文学部(文学科、心理学科)設置

健康科学部に看護学科設置

健康栄養学科を管理栄養士専攻・健康スポーツ栄養専攻に専攻分離

健康科学部に医療福祉学科(社会福祉専攻、言語聴覚専攻)、心理学科設置
人文学部募集停止

こども教育学部、看護学研究科の設置

女性キャリア開発研究センター設置

京都光華の教育

(仏教精神に基づく女子教育)

おもいやりの心

建学の精神に基づいて人間形成に精励し、一方で、幅広い教養を身につけ、さまざまな資格を取得して社会で活躍できる有為な学生を社会に送り出す。

光華の心を持つ学生を育てる

- ◆ 向上心
- ◆ 潤いの心
- ◆ 感謝の心

社会的に自立した女性を育てる

京都光華のエンロールメント

(建学の精神を具現化する教育システム)

寄り添う教育

- 入学前から卒業後までの総合的支援
- 個別対応教育と学生生活支援の統合
- 組織横断的なトータルマネジメント (EM)

科学的なアプローチの導入(IR)

- 経験や勘に頼らないサポート
- データに基づくエビデンスベースのサポート

- 学生へのフィードバックと内省の重視
- 学修成果・成長過程の可視化

2. IR活用に関する基本的な考え方・方針

- 組織横断的なマネジメント
- 学生へのフィードバックと内省

学生の成長
支援

- ◆ EM施策の体系化
- ◆ EM施策の適切性・有効性の確保

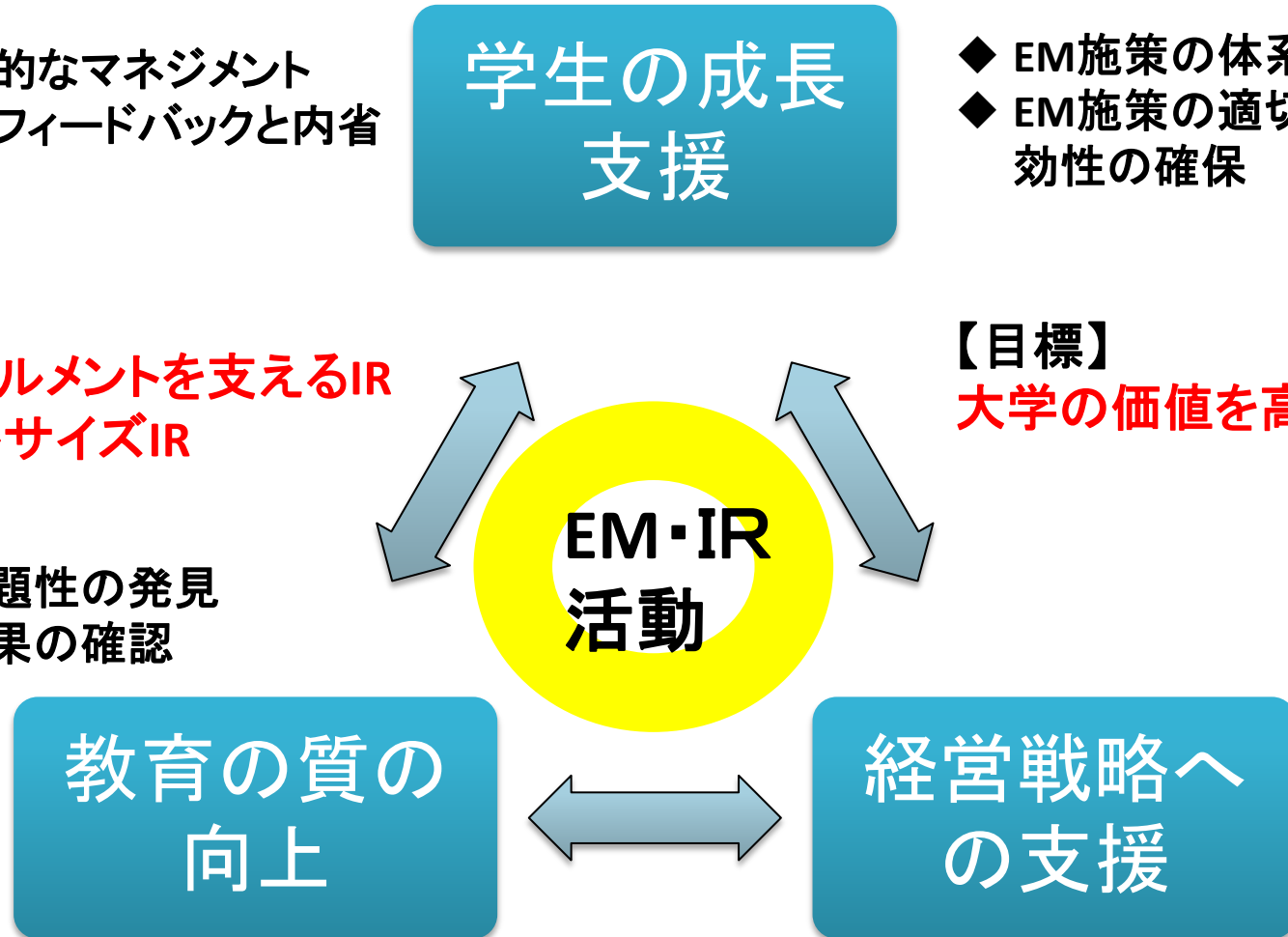
【特色】

- エンロールメントを支えるIR
- スモールサイズIR

- ◆ 課題性の発見
- ◆ 成果の確認

【目標】

大学の価値を高める



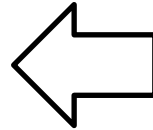
- アセスメント体系の構築
- PDCAサイクルの確立

- ◆ 入学者・中退者分析
- 経営計画への反映

IRに必要な情報をいかに収集、管理、活用するか

スモールサイズIRとは

- 課題の優先順位づけ
- 機動性のある取組
- スモールスタート
- フィードバックと改善・継続



収集

管理

活用

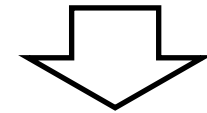
一元管理に比較的「抑制的」

「一貫性、継続性、関連性」の追求
情報管理の適正確保

ニーズの掘り起し

「一体的なマネジメントが重要となる」

- ✓ 情報収集が重複・肥大化してきていないか？
- ✓ 情報が不足しているところはないか？
- ✓ 情報収集は一貫しているか？
- ✓ 情報収集に終わっていないか？

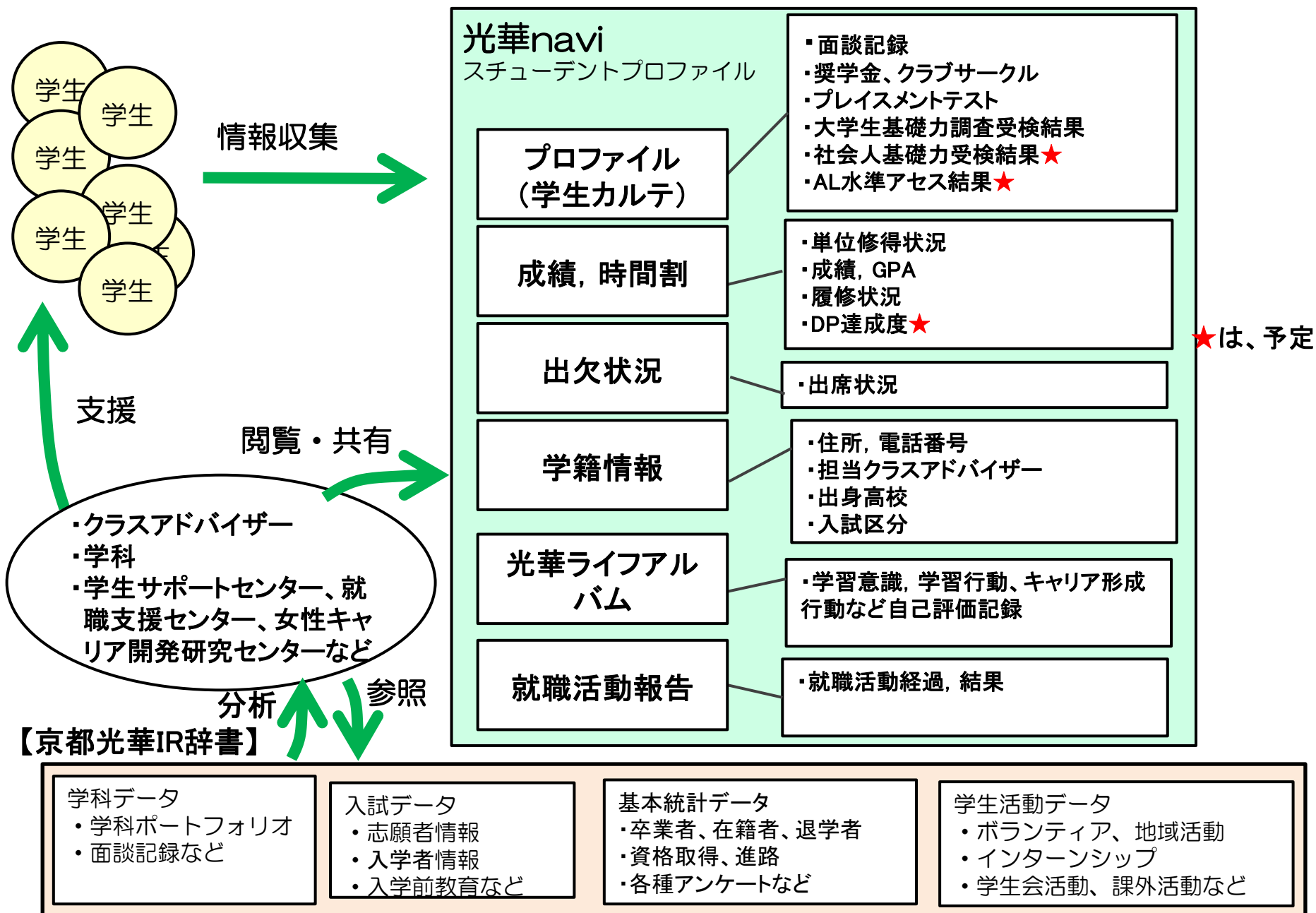


京都光華IR辞書

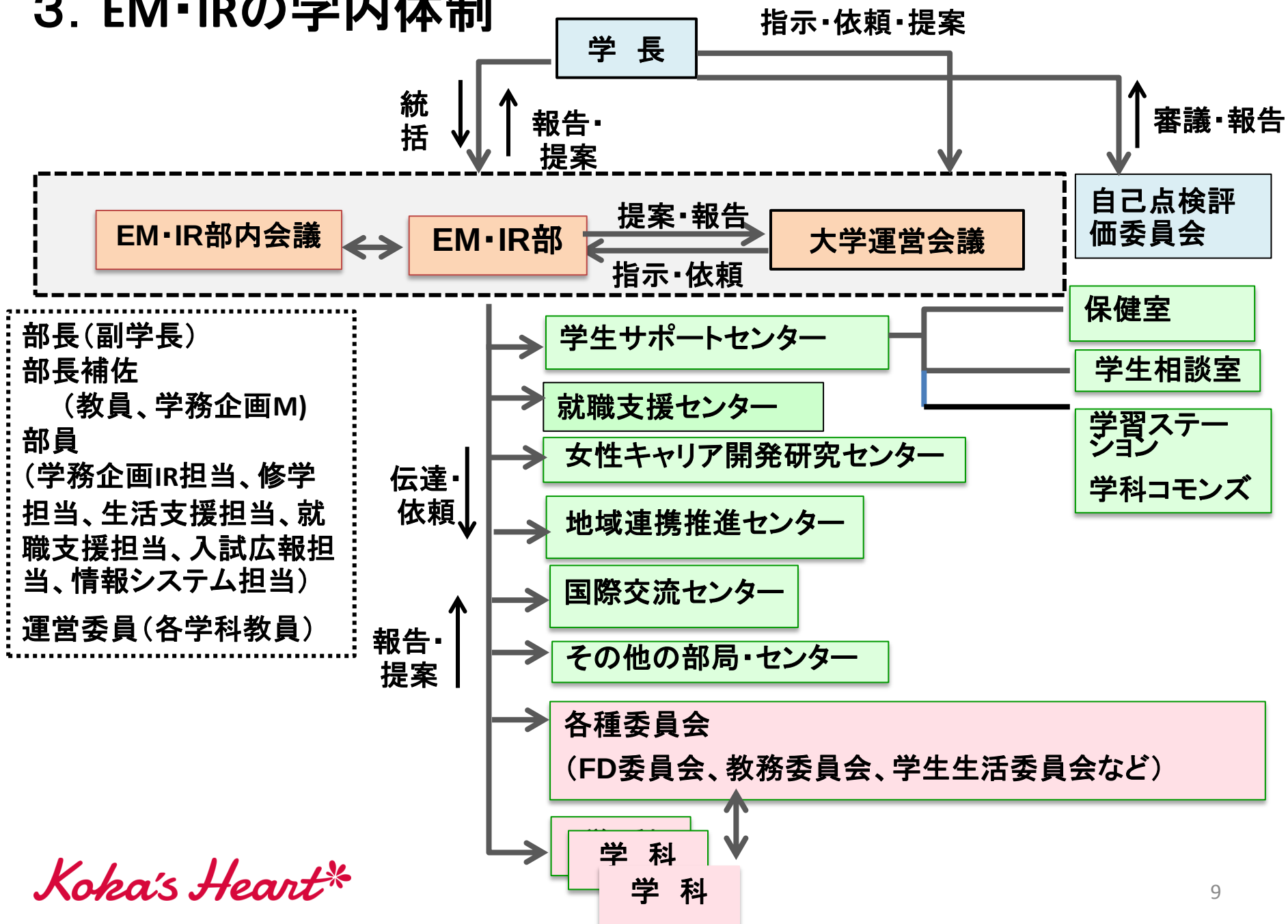
- データの種別ごとのリスト化、情報の所在と保持形態
- アセスに直結する基本情報の積極的蓄積・活用
- 個別情報のひも付と情報管理の徹底（EMへの活用）

学生支援情報システム「光華navi」と京都光華IR辞書

Koka's Heart*



3. EM・IRの学内体制



4. 活動評価と改善の仕組み、その現状

～学修成果・成長過程の可視化を中心に～

(4-1) アセスメントの体系化の推進方向

- ◆ 指標の設定 直接指標(就職率、国家取得率、GPA等)
 間接指標(各種アンケート、外部テスト等)
- ◆ アセスの計画化 修業年限に応じて計画
 (継続性の確保)
- ◆ 分析方法 時系列的な変化重視(経年比較、変容プロセス)
- ◆ ベンチマークマーキングの活用
 全学的実施による学科間比較
 外部テストの活用(同規模校、女子大比較など)
 官公庁、他大学等の公開情報活用(国家資格取得率など)

(4-1-2)学修アセスメントデータの活用目的

①個別学生対応教育
(寄り添う教育)

学生へのフィードバックと
リフレクション、教員による
丁寧な個別指導

②学位プログラムの充実
(研究科・学科・専攻)

組織的な学科等FDの実施

③教育質保証のエビデンス
(社会的説明責任)

女子大としてのブランド力
の向上(経営戦略への反映)

平成28年度の学修アセスメント体系(大学)

Koka's Heart*

区分	4月	5月	6月	10月	1月	3月
1年	プレイスメント テスト	大学生基礎力 テスト	光華ライフアルバム	光華Aレアセスメント		
2年					社会人基礎力 テスト	DPルーブリック
3年						
4年						卒業時アン ケート

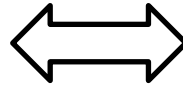
※社会人基礎力テストの時にカリキュラム満足度、進路意識など付帯調査予定
今後、京都光華コモンベシクルーブリックの開発を進める

区 分	概 要
大学生基礎力テスト	入学段階での学生の入学動機、学びの意識、基礎学力、進路意識等を把握
光華ライフアルバム (学生支援GP)	学生の学生生活の状態や進路形成行動などを客観化させ、内省を通じて自らを自主管理できる能力を育成
光華ALアセスメント	学生のアクティブラーナー度(主体的な学習態度・行動)を客観的に可視化するため大学APで開発中のもの
社会人基礎力テスト	社会で求められる能力を「リテラシー」と「コンピテンシー」の2側面から客観的に測定しようとするもの
DPループリック	ディプロマポリシーを構成する項目ごとに学生が自己評価し、DP達成度を測定。教育成果の間接的な評価として活用
卒業時満足度アンケート	授業や進路をはじめ学生生活全般について卒業生の満足度を把握

(4-2) IR活動の評価とIRによるPDCAサイクル

□ よく聞かれるIR批判

思いつきのIR
独断専行のIR
やりっぱなしのIR
IRのためのIR



□ 対応する取組

現場ニーズの掘り起し
課題の優先順位づけ
丁寧な説明と説得
フィードバックと改善・継続

□ 本学の現状

総合的なIR評価システムは未確立

IRの対象活動のPDCAを定着させることに注力

◆ IR活動において PDCAを回すため心がけていること

- ✓ IR活動の計画は、全学の承認を得る
⇒ 目的、目標の確認、共有
- ✓ 結果の学科・関係部局等へのフィードバックの徹底
- ✓ 学科等での結果の共有と討議の実行
- ✓ 全学的な共有と総括(FD委員会中心)
- ✓ 総合的な総括と評価は、大学全体で(大学運営意思形成機関中心)

IR活動のPDCAサイクル

心がけている取組指針	具体的な活動の流れ	PDCAを回す工夫
計画は全学の承認を得、目的、目標の共有を図る	EM・IR部から大学運営会議に提案・報告	提案に当たって、EM・IR部内会議で学科等の意見聴取や事前調整を行うケースがある
結果の学科・関係部局等へのフィードバックの徹底	集計結果等についてFD委員会等を通して学科等にフィードバック	出来る限り参照データを示し、結果の解釈の枠を提示。結果の解釈の決めつけを行わない
学科・関係部局等での結果共有と討議の実行	討議結果をEM・IR部に報告	討議すべき観点を明確に示すため報告フォーマットを配信する
全学的な共有と総括（FD委員会中心）	委員会で学科等から報告に基づき課題の共有化や優先課題・共通課題の抽出を行う	取り組みのヒントを見出すよう働きかける
総括と評価は、大学全体で（大学運営意思形成機関中心）	大学運営会議に委員会報告やEM・IR部活動報告として報告し、必要な協議を行う	教職協働が高いレベルで図られるよう働きかける。経営計画（予算等）に反映されることもある

□ 入学後の円滑な適応【早期退学者防止対策】の例

【週次レポートの構成】

- 累計欠席コマ数(必修、選択別)
- プレシメント調査結果
(国語、英語)
- 大学生基礎力調査からの抽出項目

【運用】

毎週、全学科すべての1年生の情報を学内ポータルサイトに掲載。アクセス権の範囲はそれぞれで設定

<週次レポートのイメージ>

平成28年度入学生 必修/必修以外の累積欠席コマ数<20160600時点>※前回:20160531														
学年・専攻	学期	必修履修欠席コマ数 今回	必修履修欠席コマ数 前回の増加	必修以外履修欠席コマ数 今回	必修以外履修欠席コマ数 前回の増加	プレシメントテスト 英語レベル	プレシメントテスト 国語レベル	大学での学びは、授業科目や履修するために必要な力を身につけるために必要だと感じている	授業の内容と自分の目標との結びつきを感じている	大学で(これまでに)よりよい社会貢献ができていると思う	大学で(これまでに)よりよい社会貢献ができていると思う	大学での学び	学期・学年での学び	大学での学び
1	12	+2	1	1	0	高2	中2	3.あきらめてはならない	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	1.とてもそう思う
	12	+1	5	5	+1	高2	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	2.とてもそう思う
	10	+4	5	5	+3	高1	中2	1.非常にあてはまる	3.あまりあてはまらない	1.非常にあてはまる	3.あまりあてはまらない	1.第一志望だった	1.第一志望だった	1.とてもそう思う
	9		1	1	0	高1	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	2.とてもそう思う
	5		2	2	0	高3	高1	2.ややあてはまる	3.あまりあてはまらない	3.あまりあてはまらない	3.あまりあてはまらない	2.第二志望だった	1.第一志望だった	2.とてもそう思う
	4	+2	4	4	0	高1	高1	1.非常にあてはまる	3.あまりあてはまらない	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	2.とてもそう思う
	4		3	3	0	高2	高2	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.第三志望以下だった	2.第三志望以下だった	1.とてもそう思う
	3		4	4	0	高2	高2	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.第二志望だった	1.第一志望だった	1.とてもそう思う
	3		0	0	0	高2	高1	1.非常にあてはまる	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.第三志望以下だった	1.第一志望だった	2.とてもそう思う
	2		2	2	0	高3	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	1.非常にあてはまる	1.非常にあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	2.とてもそう思う
	2		2	2	0	高1	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	2.とてもそう思う
	1		1	1	0	高2	高1	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	2.第二志望だった	2.とてもそう思う
	1		1	1	0	高2	高1	1.非常にあてはまる	3.あまりあてはまらない	2.ややあてはまる	3.あまりあてはまらない	1.第一志望だった	1.第一志望だった	2.とてもそう思う
	1		0	0	0	高2	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.第二志望だった	1.第一志望だった	2.とてもそう思う
	1		0	0	0	高3	高3	1.非常にあてはまる	3.あまりあてはまらない	2.ややあてはまる	1.非常にあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	1.とてもそう思う
	1		2	2	0	高1	中2	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	2.とてもそう思う
	0		2	2	0	高2	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	1.とてもそう思う
	0		0	0	0	高2	高3	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	1.とてもそう思う
	0		0	0	0	高2	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	1.とてもそう思う
	0		0	0	0	高1	高1	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.非常にあてはまる	1.非常にあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	1.とてもそう思う
	0		0	0	0	高1	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	3.あまりあてはまらない	2.第三志望以下だった	2.第三志望以下だった	2.とてもそう思う
	0		1	1	0	高2	高1	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.第二志望だった	2.第二志望だった	2.とてもそう思う
	0		1	1	0	高2	高1	1.非常にあてはまる	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.第二志望だった	2.第二志望だった	2.とてもそう思う
	0		0	0	0	高2	高2	1.非常にあてはまる	3.あまりあてはまらない	2.第三志望以下だった	2.第三志望以下だった	1.第一志望だった	2.第二志望以下だった	2.あまりそう思う
	0		3	+1	0	高1	高1	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	1.とてもそう思う
	0		0	0	0	高2	高2	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	1.非常にあてはまる	1.非常にあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だった	1.とてもそう思う

【PDCAのまわし方】

- ①EM・IR部
- ②大学運営会議
- ③EM・IR部
- ④学科
- ⑤学生生活委員会

欠席状況週次レポート
の提案
全学的な了承
学科及び関係部局に
週次レポートの発信
個別面談・個別指導に
活用
活用状況等の把握と
討議
大学運営会議へ報告

□ 授業改革（寄り添う教育・鍛える教育）の展開例

◆ カリキュラムポリシー

◆ カリキュラム

◆ カリキュラムマップ・フローチャート

◆ シラバス

◆ 各授業科目

- ・教育内容 授業目標、授業計画・授業外学習の指示の明記など
- ・教育方法 授業方法の明示など
- ・成績評価 評価基準・評価方法の明示など

【適切性のチェックとその手段】 EM・IR部中心に企画・実施

- ・GP分布分析（学科別、科目区分別、専任・非常勤別など）
- ・学生授業評価（年2回 評価結果の分析、教員フィードバック義務付け）
 - 教員の想定する授業外学習と学生の実態
 - 学修成果関連質問項目と成績の相関
 - 成績と授業外学習時間の相関など
- ・授業公開（年1回 授業参観の義務付けと参観報告）
- ・教員評価「授業改善」項目分析
- ・指導及び成績評価ガイドラインの履行状況チェック
- ・全学FD研修会、学科FD（実施と総括、フィードバック）など



参考：大学AP「学習・学修マネジメント力」を向上させる学習支援体制の構築 (アクティブラーナーを育てる)

個々の学生・教職員の責任にせず、組織として実現させる仕組みを構築

領域 A

授業改革(授業形態のAL化)

全学共通科目における本学ALの推進

- ① 予習復習の課題化の徹底
- ② 学生が考え調べたことを口頭発表する学びの徹底

領域 D

指標によるAL態度の把握

「光華アクティブラーナー水準アセスメント」

学習姿勢を4水準で評価

- ①教員主導のAL ②教員と協同のAL
- ③学生自身のAL ④他者のAL化

情報提供

学習支援会議

領域 B

授業外学修改革

多様な学習ニーズに応える環境整備、専任スタッフの個別学習サポート体制

- 学習ステーション ■ 学科コモンズ
- 情報教育センター ■ 図書館

情報提供

領域 C

学修成果の可視化

- ① セルフチェックシート

授業・授業外の予習・復習等を学生が自己評価

- ② ルーブリック

授業の目標と評価基準の達成度を明確化

アクティブラーナー(AL) 水準表

【教育実践に基づいて作成した概念図】

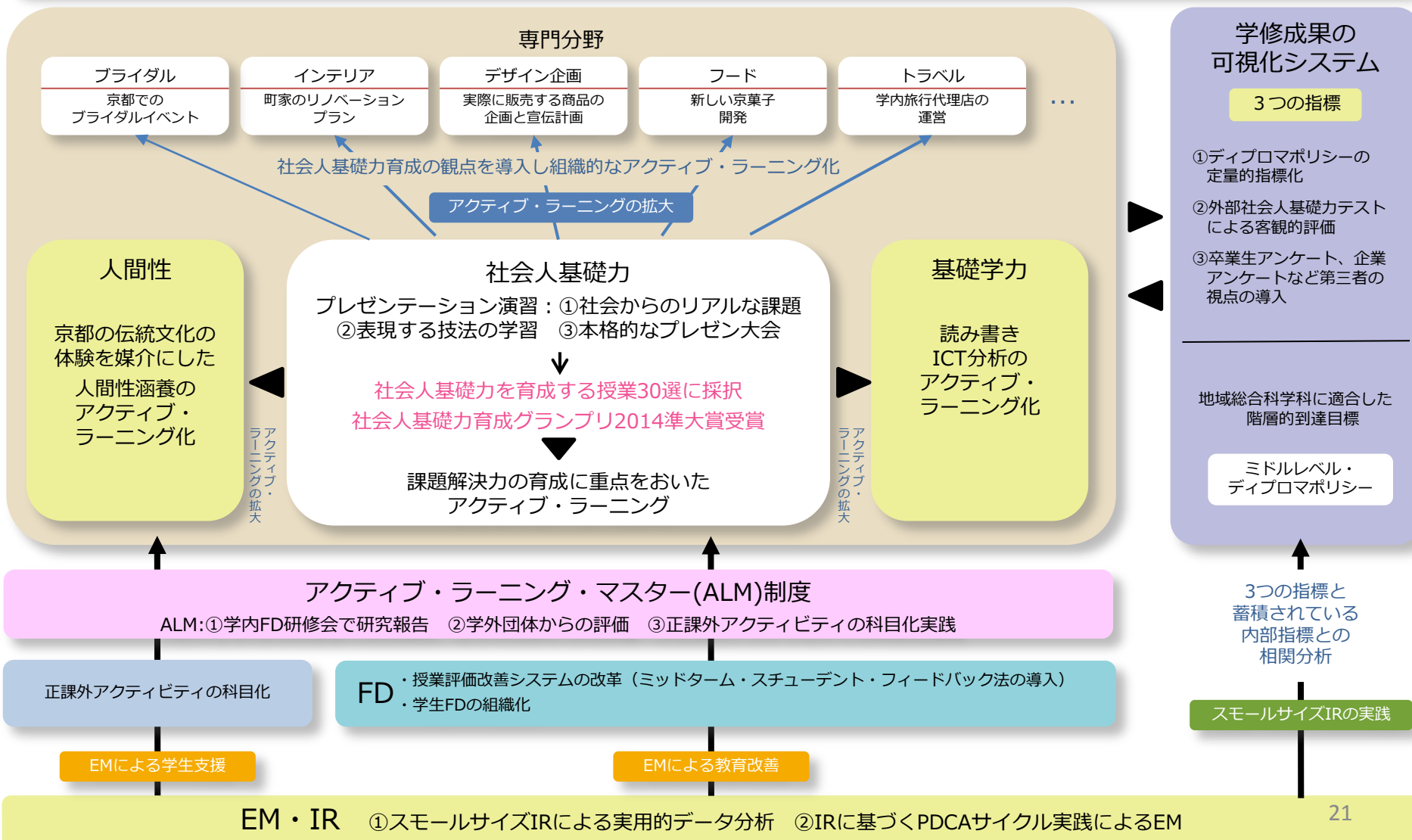
水準	0	1	2	3	4
名称	非AL	教員主導AL	教員と協同AL	学生自身AL	他者支援AL
定義	課題の提出など守れない 言われたことが十分できない	・ 教員に言われたことは何とかやれる ・ 自ら工夫して学びに取り組むということはない	・ 教員が指示したこと以外にも自主的に学ぶ姿勢 ・ 学ぶ方法を獲得しておらず、教員と協働で学ぶ	教員の指示がなくても主体的に学ぶことができる	自分の学んだことを他者に分かりやすく 教示でき、他者の学習意欲を高められる
3つの要素	×基礎学力 ×学ぶ意欲 ×学習マネジメントスキル	○基礎学力 ×学ぶ意欲 ×学習マネジメントスキル	○基礎学力 ○学ぶ意欲 ×学習マネジメントスキル	○基礎学力 ○学ぶ意欲 ○学習マネジメントスキル	○基礎学力 ○学ぶ意欲 ○学習マネジメントスキル


 AL度を測定する項目 AL水準を規定する項目 フィードバック・活用法(開発中)

参考:短期大学部AP(アクティブラーニングの活性化と学修成果の可視化) *Koka's Heart**

本事業の目的

①地域総合科学科に適合したアクティブ・ラーニングの活性化 ②地域総合科学科に適合した学修成果可視化システムの導入



総合的評価提示システムの概念図

ディプロマポリシー ライフデザイン学科

1. カリキュラムの多面的な履修を通して、豊かな人間形成をおこない、幅広く深い現代的教養を身につける
2. 体系的な学習を通して、現代の多様な課題を見つけ、問題を解決する判断力を身につける
3. 自らの人生の目標に向かって努力し、実践できる人材となる
4. 社会の変化に対応して、生涯を通して自らを高めることができる
5. 自らの立場を相対化し、広い視野から他者と協働できる
6. 学んだことや考察した結果を適切な手段によつて的確に表現することができる

カリキュラムマップ

学科目	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号*					
		凡例 ①: DP達成のために特に重要な目標 ○: DP達成のために重要な目標 △: DP達成のために望ましい目標					
		①	②	③	④	⑤	⑥
ファッションディスプレイ 実習	1. ディスプレイマネキンに対して、ピンワーク(ピンを用いて生地を巻き、あるいはとめつける技術)による服飾デザインの基礎立体表現ができる		△		○		
	2. ディスプレイマネキンに対して、ピンワークによる服飾デザインの応用立体表現ができる。				○		○
	3. ディスプレイマネキンおよび人体に対して、ピンワークによる服飾デザインの創作立体表現ができる。				○		○

教員による到達目標達成度評価

学生証 番号	到達目 標1	到達目 標2	到達目 標3
10L991	5	3	4
10L992	2	3	3
10L993	4	1	2

学生による到達目標達成度評価(達成感)

ファッションディスプレイ実習 ポートフォリオ

到達目標1

ディスプレイマネキンに対して、ピンワーク(ピンを用いて生地を巻き、あるいはとめつける技術)による服飾デザインの基礎立体表現ができる

達成度

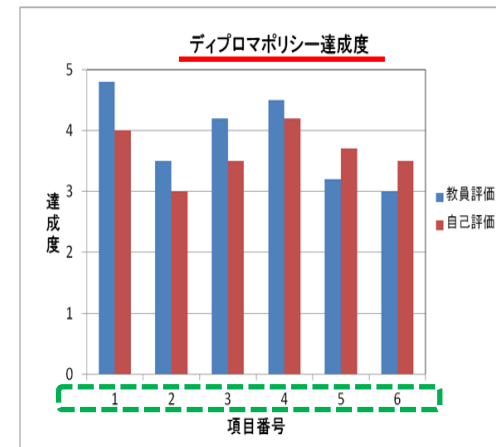
100% ● 80% ● 60% ● 40% ● 20% ● 0% ●

自己評価の理由を200字程度で書いてください

到達目標2

総合的評価提示システムの一部

科目名		評価
科目名		評価
科目名		評価
ファッションディスプレイ演習		92
到達目標	評価	自己評価
1.基礎立体表現ができる	5	4
2.応用立体表現ができる	3	4
3.創作立体表現ができる	4	5



5. 今後の課題と展望

■ EMの実現を支えるIR

【方向】EMによる学生支援の「総合性・適時性・機動性」の強化

【課題】成長感に関する学生の自己評価と他者(教員)の評価提示

【展望】成長過程の可視化のシステム化の促進

学生の内省と教員とのコミュニケーションによる意識・行動変容の自覚化の好循環の形成

■ 教育の質を担保するIR

【方向】「有効性・説得性」の強化

【課題】アセスメントポリシーの確立

【展望】DPの適切性の検証に必要なエビデンスの集積、教育成果の把握の精緻化、教育内容・教育方法・成績評価の構造分析の深化

■ 経営戦略に寄与するIR

【方向】高大接続、三位一体改革への対応

【課題】一体的なAP・CP・DPの見直しと入試改革、卒後の追跡

【展望】入学者分析と入試戦略、入試改革と初年次教育改革、卒業生分析(女性キャリア開発研究センター)、教育成果の外部発信

よりそい 育む 一人ひとりをしっかりと

京都の小さな大学が建学の精神を拠り所にここま
で教育実践を積み重ねてきました

これからも、学生一人ひとりにしっかり寄り添い
歩んでいきます

ご清聴ありがとうございました